

第3章 修復工事

第1節 中央祠堂南階段の修復

南祠堂の再構築に先立って、基壇内に埋納されてしまう中央祠堂南階段の部分修復を行った。中央祠堂南階段は南祠堂の建立に伴って南祠堂の基壇埋土によって埋め戻されており、上に南祠堂下成基壇上面敷石 N18 が敷かれる。N18の上には躯体部が乗り、その下部地覆石 SN133 をはじめとする2石が、躯体部全体の南西方向への沈下傾斜に伴って、南西方向へ折損ないし破断していた。今回はこの3石を修復し元に戻した。

第37図のN18SN133は西半分が割れていたため、オリジナル石材を接合している。その裏に当たるSN137は南西隅が割れていた。SN133と異なり細かく割れていたため、新材を補い接合した。その下のN19の葛石に相当するモールディングを有する石材は、石自体の破損が少なかったため、そのまま使用している。羽目石に相当するN20は南西コーナー部が第38図のように特殊な破損状況を呈しており、その部分を新材に置換した。羽目石の西側については第41図に見るように、モールディングの細部が破損しているとともに、3つに割れており、接合しても強度が保てないと判断し新材に替えた。

なおこの修復に伴い、中央祠堂南階段を一部解体することとなり、第43図に見るように転用石材が検出された。後述するN21やN23に見られる転用石材と類似しており注目される。



第37図 中央祠堂南階段 修復後



第38図 修復前



第39図 羽目石の破損状況



第 40 図 中央祠堂南階段 修復後（左：西側面、右：南面）



第 41 図 中央祠堂南階段 西側 N20

第 42 図 中央祠堂南階段 修復後西上面



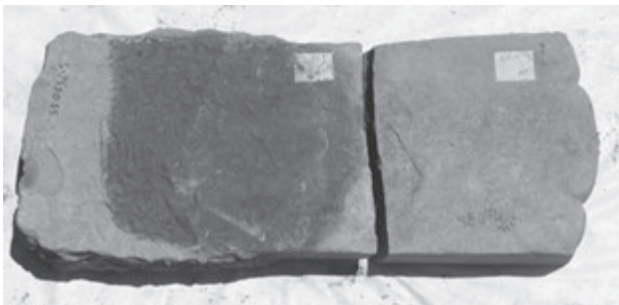
第 43 図 中央祠堂南階段 西袖部内側の転用石材

第2節 石材の接合修復

南祠堂の解体に合わせて破損石材の接合を順次行っている。接合方法は接合面の2カ所に深さ10cm～20cmほどの穴を空け、ステンレスボルトを挿入し、エポキシ樹脂で固定するという方法である。本方法はアンコール遺跡群の修復において一般的に使用している方法であり、今回もこの方法によって石材の接合を行っている。接合面の隙間は、エポキシ樹脂と砂岩粉末を混合した間隙材を充填し、はみ出した部分を固化後に削り調整を行っている。



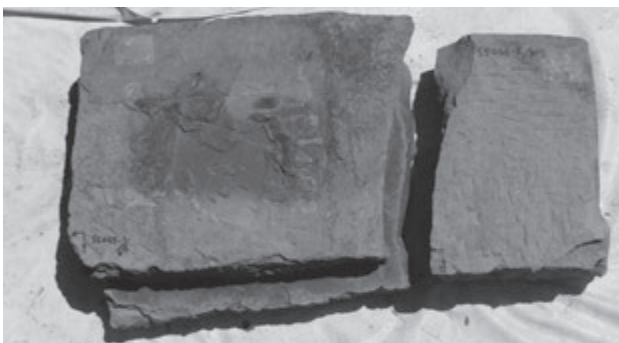
第44図 石材の修復 SS058N15 左：修復前 右：修復後



第45図 石材の修復 SS061N15 左：修復前 右：修復後



第46図 石材の修復 SN101N15 左：修復前 右：修復後



第47図 石材の修復 SS065N15 左：修復前 右：修復後

